

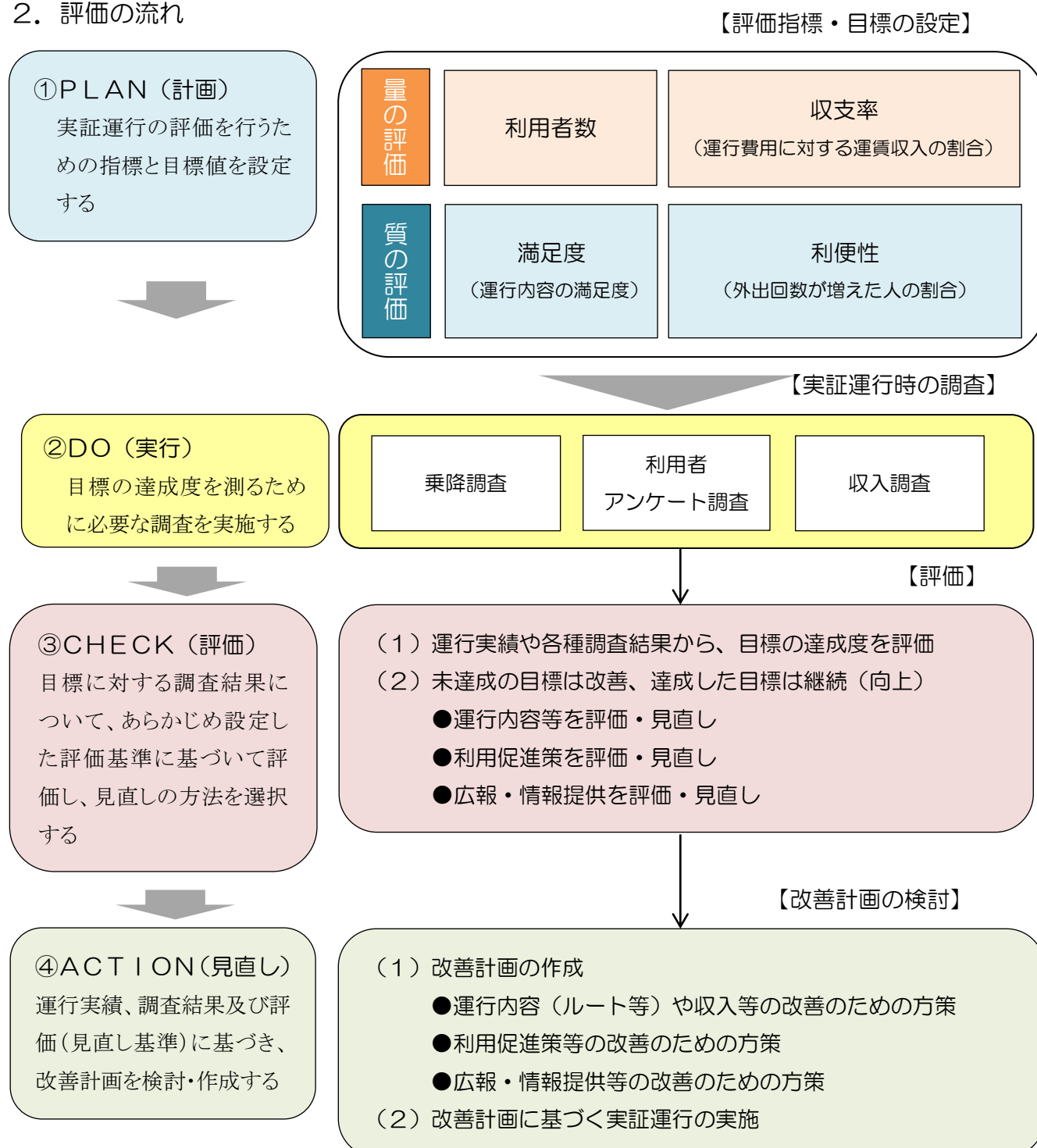
## ■事業評価

### 1. 評価の基本的な考え方

○実証運行では、「みんなで育てる地域公共交通」を実現していくために、運行実績に対する評価を行う。このため、実証運行にあたっては、単に採算面だけではなく、関係者がこれまでどのような行動・取り組みを実施してきたのかといった多角的な視点で検証を行うために、さまざまな目標を設定することが必要である（量の評価、質の評価）。

○評価基準は、こうした目標の達成度に対して、どのような見直しが必要なのかを判断するための重要な基準となり、改善計画を検討する方向性を定めるものである。

### 2. 評価の流れ



### 3. 評価の基本的な考え方

○評価指標は、住民ニーズを反映し、持続的、継続的に今後とも運行するために、利便性と採算性の両面から再検討し、改善を図りながら、運行のあり方を検証するため、次のように設定する。

	評価指標	指標内容
量の評価	利用者数	<ul style="list-style-type: none"><li>・公共交通のサービスのあり方を数値として把握する</li><li>・利用促進策の取り組み成果などを評価する場合に用いる</li></ul>
	収支率	<ul style="list-style-type: none"><li>・運行の見直し等を行うための最も基本的な指標</li><li>・採算性とサービス提供の妥当性などを数値として把握する</li><li>・運行計画(運行日、便数、運賃など)を評価する場合に用いる</li></ul>
質の評価	満足度	<ul style="list-style-type: none"><li>・運行内容などのサービス満足度を数値として把握する</li><li>・ルート、便数、ダイヤ、運賃、情報提供などを評価する場合に用いる</li></ul>
	利便性	<ul style="list-style-type: none"><li>・運行内容などのサービス利便性を数値として把握する</li><li>・外出機会の増加(外出するようになった)</li><li>・公共施設、商業施設の利便性向上(行きやすくなった)</li><li>・マイカーを運転する回数や送迎回数の減少 など</li></ul>

#### 4. 調査の概要

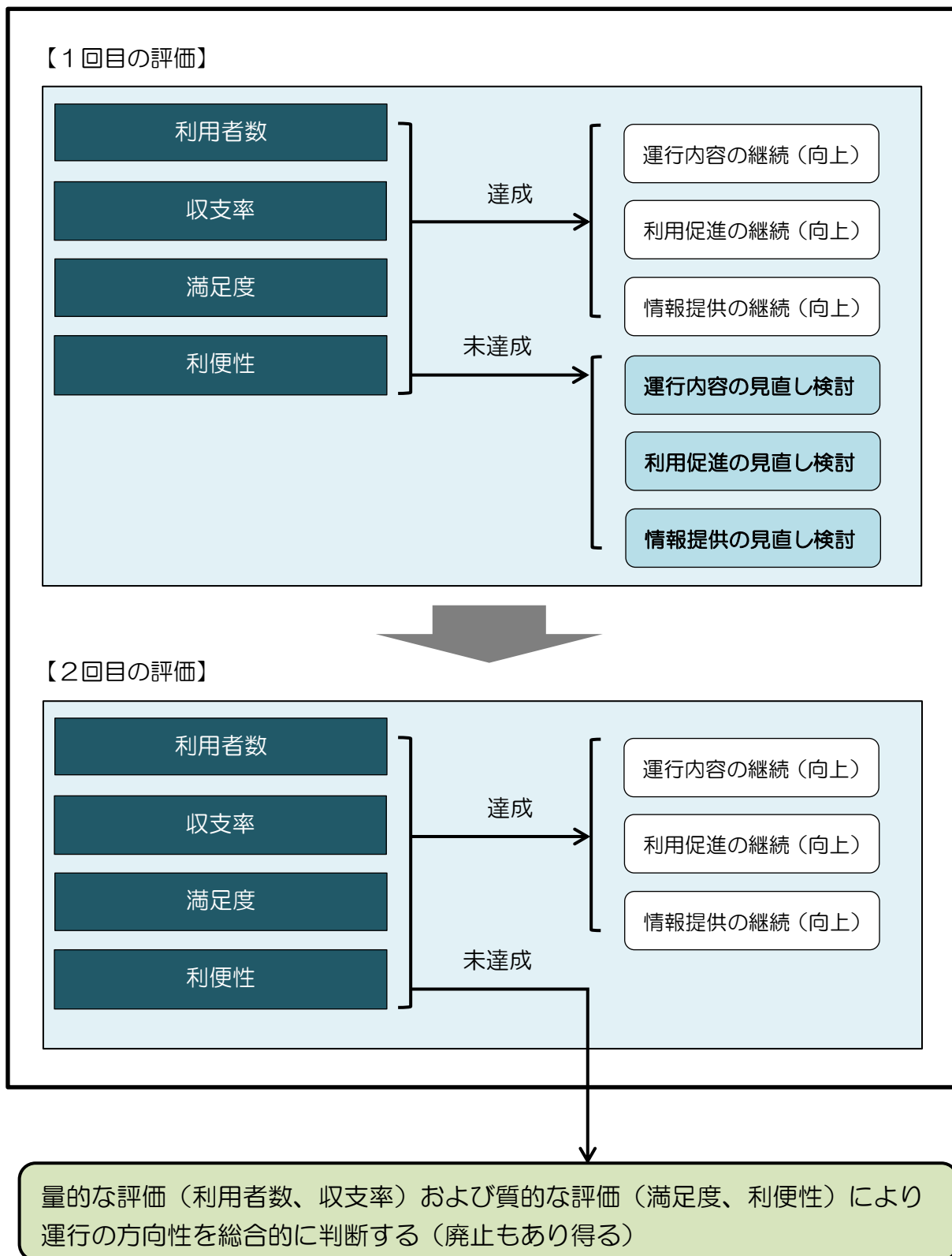
○運行実績及び住民ニーズを把握し、実証運行を評価するために、下表の調査を実施する。

項目	乗降調査	利用者アンケート調査	収入調査
評価項目	利用者数	満足度、利便性	収支率
目的	運行サービス等の見直しを行う場合の基本的な利用者情報として把握するために実施する。	利用状況の把握や今後の利用ニーズを把握するために実施する	運賃収入を把握するために実施する
期間	毎日	実証運行期間中に6回以上	毎日
方法	交通事業者の日報 (ドライバーが記録)	車内で調査票を配布し回収	交通事業者の日報
主な内容	・ルート別・便別・停留所別の乗降者数 ・乗り継ぎ利用者数 ・発着時間 など	・利用目的(目的) ・利用頻度 ・属性(年齢、性別、住所) ・改善や充実の要望 など	日別ルート別売上げ
対象者	全ての利用者	調査期間の全ての利用者	全ての車両

## 5. 評価と見直し内容

### (1) 評価

- 実証運行中は、適時、評価指標が目標値に到達しているのかを調査結果等から評価を実施する。
- 下図のとおり運行内容、利用促進策又は、情報提供等は、評価指標の目標値を達成していれば「継続（又は向上検討）」、未達成であれば「見直し検討」することになる。ただし、2回目の評価時に量的な評価が未達成かつ質的な評価も低い場合は廃止もあり得る。



## (2) 見直し内容

○運行計画の見直しを検討するため、運行内容（ルート、便数・ダイヤ、車両サイズ等）の見直しを検討する。

### 【見直し項目】

#### ①ルートの見直し

<方策>

- ・ルート、バス停の廃止・見直しなどを検討対象とする

#### ②便数・ダイヤの見直し

<方策>

- ・増便・減便、ダイヤなどを検討対象とする

#### ③車両のサイズ

<方策>

- ・車両サイズを検討対象とする

## 5. 評価・見直しの実施体制

